

◆ 早稲田大学創立125周年記念式典

WASEDA 125th Anniversary



記念式典会場内の様子

早稲田大学創立 125周年記念式典

白井 克彦
早稲田大学 総長

稲田大学が目
指す第一は、
地球上の至る
所で、人類と
地球社会に貢
献できる人材
を育成するこ
とです。既に、
世界中から2
700名の
留学生が集
まり、逆に
海外に派遣
されている
早稲田生は
900名を
超えています。
早稲田
は単なる日

本の大学ではなく、アジアの早稲
田、世界の早稲田として、学生、
教職員が世界のあらゆる地域から
集まり、また、地球上の至る所を
学びの場とすることが進んでいま
す。つまり、「日本の大学という
存在を超える」ことを目指さなけ
ればならないと考えています。
このような理念は、実は大隈重
信が本学を創設したときから目指
してきたものであります。すなわ
ち、「学問の独立」「学問の活用」
「模範国民の造就」が本学の教旨
です。独創的な視点から学問をす
るが、それは常に実際のでなけれ
ばなりません。そして、人類社会
に貢献するものでなければ意味が
ありません。

明治時代に、今日、大学となっ
ている多くの高等教育機関が設立
され、近代国家の建設に貢献して
きました。
早稲田大学も2007年10月21
日、創立125周年の記念日を迎
えました。この日は、幸いにも大
変な好天に恵まれ、国内外の多く
の大学の学長、福田康夫内閣総理
大臣をはじめ沢山の要人の出席を

得て、多くの校友、学生、教職員、
父母が集まり、125年の歴史を
改めて思うと同時に、本学の「第
二世紀」へ向う決意を新にするこ
とができました。
21世紀は、まさに知と情報の世
紀であり、世界中の大学が互いに
激しく競い合いながらも、人類共
通の課題に対して正面から共に取
り組まねばならない時代です。早



大隈講堂へ向かうパレードの一端



大隈講堂前での校歌斉唱

これからの大学は、多様な文化、
価値観の中で問題解決を図る訓練
の場所として、さらにそのための
具体的な情報発信源として機能し
なければなりません。昨年10
月、大学のそのような使命を確
認する機会でありました。

